

地域再生のための 「福祉開発マネジャー」 養成プログラム

Welfare 
×
Development

地域共生社会の実現に向けた
重層的支援体制整備に求められる
人材の養成！

学ぶのは
「答」ではなく
答を創り出す
「力」です



needs



<通信・通学融合型プログラム>



e-learning



field work



プログラム内容

「地域再生のための『福祉開発マネジャー』養成プログラム」は、福祉と開発の統合概念と実践方法論、各地現場との間で培われた連携協力関係、革新的な教育メディアとインフラの蓄積を、研修事業として還元する「履修証明プログラム」(1年間)です。

総開講時間 125時間(予定)

修了要件 1年間に開講7科目のうち「講義科目」から2科目以上、「演習科目」から1科目以上、かつ「フィールドワーク(※1)」および「課題研究(※2)」を履修し、修了認定申請をおこない、最終審査に合格すること。

※1 フィールドワークは、高知、大阪または滋賀のいずれかのプログラムへの参加が必須となります。

また、すべてのフィールドワークへの参加も可能です。

(フィールドワークの実施先は、変更・追加する場合があります)

※2 課題研究の最後に開催される、課題研究発表(3月)への参加は必須となります。

カリキュラム

<科目区分>	<科目名称>	<担当教員>
講義科目	① 福祉社会開発論	平野
	② 地域再生・女性の起業	野田(直) 野田(さ)
	③ 地域福祉マネジメント論	平野
演習科目	④ 支援のフィールドワーク	小國
	⑤ 調査方法論	田中
	⑥ フィールドワーク [事前学習・現地実習]	平野・吉村
	⑦ 課題研究	全教員



意見発表の様子

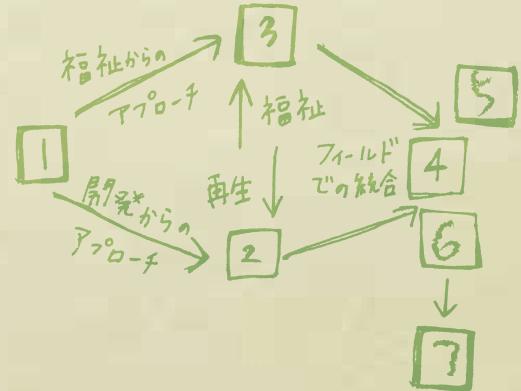
科目名	地域福祉マネジメント論	15講(22.5時間)
担当者	平野隆之	
テーマ	福祉開発マネジャーが活用できる地域福祉マネジメントの方法	
科目のねらい	<キーワード> 地域福祉マネジメント、制度福祉との協働、地域共生、包括的支援体制、 <内容の要約> 本プログラム「地域再生のための福祉開発マネジャーの養成」における基幹的な科目としての性格を持つ。テキストでは、地域福祉マネジャーを想定して解説が進んでいくが、ここでいう福祉開発マネジャーと類似性を多く持つ。また、以下に示すように、地域福祉行政が想定されているが、民間組織でのマネジメントにも応用可能である。 マネジメントの方法(基本機能)として、組織化的な作業に相当する①開発の主体化と③(多様な主体との協働)の合意形成を重視し、他方で「条件整備」を生み出すために、②実践のアセスメントといった分析的作業を踏まえた、④人材育成・組織の整備課題の整理、そして、それらを実施するための⑤計画化の議論とさらなる「条件整備」の課題を見出す⑥進行管理・評価の場のマネジメントを設定している。 <学習目標> 地域福祉を推進し、地域共生を進めるためのマネジメントの方法を理解する。 地域に応じた地域福祉のアセスメントができる、それをもとに事業や計画を推進する方法を習得する。 多くの実践事例の整理、分析を活用して、「課題研究」に生かすという目的を持つ。	
授業の進め方	第1～2回 序章 第1章 地域福祉マネジメントの着想 ⇒地域福祉マネジメントの基本機能の理解を深める<映像教材1> 第3回 第2章 事例研究:中土佐町 高知県フィールドワークの準備 ⇒高知県の地域福祉等の政策の理解<映像教材2> 第4回 第3章 地域福祉と包括的支援体制の考え方 <映像教材3> ⇒地域福祉開発政策と段階別の地域福祉マネジメントの理解を深める 第5回 第4章 地域福祉マネジメント現場への接続 <映像教材4> ⇒事例研究の学び方 第6回 第5章 介護保険政策と地域福祉行政におけるマネジメントの比較 ⇒第6章 生活困窮者自立支援制度の機能を高める地域福祉マネジメント 第7～8回 第7章 権利擁護支援の計画策定・進行管理と地域福祉マネジメント ⇒<映像教材5>を活用した実際の計画現場の学び 第9回 第8章 事例研究:東近江市 ⇒中山間地での地域福祉マネジメントによる地域づくりとの連携を学ぶ 第10回 第9章 事例研究:芦屋市 ⇒第11～12回 第10章 事例研究:東近江市 ⇒中山間地での地域福祉マネジメントによる地域づくりとの連携を学ぶ 第13～14回 第11章 事例研究:芦屋市 ⇒終章を踏まえたまとめ <映像教材6> 第15回 第12章 事例研究:東近江市 ⇒テキストにある事例についての記述や整理の方法を注意深く学ぶ。 1～5の映像教材をテキストとともに学習に活用すること。	
事前学習の内容・学習上の注意	福社社会開発論、フィールドワーク	
本科目の関連科目	『地域福祉マネジメント:地域福祉と包括的支援体制』(有斐閣)	
テキスト	『地域福祉マネジメント:地域福祉と包括的支援体制』(有斐閣)	
参考文献	『地域共生のための開発福祉 -制度アプローチを超えて』(ミネルヴォ書房)	
成績評価方法と基準	掲示板への参加度により評価する。 他の投稿者へのコメントについても、評価の対象とする。	

履修の特徴

このプログラムのカリキュラムの重点の一つは、履修生それが自分の現場の問題を取り上げ、他の履修生や教員との豊かな議論、またフィールドワークを利用して知見を深めながら、解決策を追求していく「課題研究」です。

当プログラムに参加し、こうした課題研究にとくに力を注いで履修することも可能です。

科目群は、それぞれの主題や方法が互いに連関するよう工夫されており、講義・演習とフィールドワークの循環により、教育効果が高められるように配置されています。地域の福祉課題に接し、分析の枠組みと方法を考え、関係形成にアクターとして参加し、関連する経験や知見を媒介し、事業化を試み、持続的な地域再生に向けたアセスメントを行う、といった「福祉開発マネジメント」の一連のサイクルを想定し、それに対応する理論や方法に即して各科目が位置づけられています。



受講生の声



2020年度 受講生(長野県同窓会事務局長) 丸山 健太さん

地域再生のための「福祉開発マネジャー」養成プログラムを受講したきっかけは、私が住んでいる安曇野市明科の長峰山中腹に位置する清水地区が準限界集落であり、10年後の集落のために若い世代を中心に開始した竹林整備を今後どのような形で発展させていかなければいけかを悩んでいた時に同窓会の会報に入っていた資料を見て「これだ！」と叫び、即日受講料を含め、妻を説得し応募しました。

今年は新型コロナウィルスの影響で私自身医療機関の勤務ということもあり、開校式に出席できず、一度もリアルな先生や受講生の方たちとお会いできていませんが、e-learningでの授業を受け、オンラインでのセッション等で月1回は先生や受講生の方と話ができる機会を確保してくださったおかげで皆さんを身近に感じ、心強い仲間を得たと一方的に感じています。

オンラインのフィールドワークにはなりましたが、制度ありきで支援を組み立てるのではなく、そのはざまとしっかり向き合うことで制度が活かされる、人々の生活や地域というのはもっと多様で豊かでリアルで奥深い、このプログラムを通してそういうことを自分の言葉でイキイキと発信し実践している方々がいることを知りました。

そういった学びを通して、改めて里山での活動を振り返り、もう一度住民と対話することで急に歯車があったかのように、いろんな目的をもった人たちが協力者として参加してくださったり、邪魔で燃やしていただけの竹を活

用したいという人が現れ、それが今後期間限定の地区的稼げる仕事になりそうという話まで動き出しました。また自分自身の普段の仕事は、医療ソーシャルワーカーを経て、現在は居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして働いていますが、今回の学びを通して一つの間にか縦割りの制度や所属する組織の役割で自分を縛っていて、そこに該当しない人々の生活をみなくとも仕事ができているような気になってしまい福祉をとても狭い領域で捉えていたことを痛感しました。

最初は竹を切る活動と自分の仕事が重なるとは思いもしていませんでしたが、人と人とがつながっていくことに関係のないことはないと気づいたら面白いように、整備活動も普段の仕事も見え方が変わり視野が少し広くなって、いろんなことに興味を持ち学ぶことが楽しくなってきました。まさに破竹の勢いです。

また3月の長野県地域同窓会の企画で今回の学びをお話する機会を得ました。何だかんだ言ってもやはり日福のつながりは暖かい。卒業してからしばらく経ちますが日福で良かったと思える1年になりました。



募集要項

出願期間	2022年4月1日(金)～5月6日(金) 消印有効
選考結果発送日	2022年5月13日(金) 予定
開講式	2022年5月28日(土)午後 日本福祉大学名古屋キャンパス

募集定員

15名

出願資格

- * 詳細は別紙「募集要項」をご参照ください。
- ・大学を卒業された方、または2022年3月卒業見込みの方。
 - ・2022年3月末時点で22歳に達している方で、大学卒と同等以上の学力があると本学が認めた方。

出願書類

* 詳細は別紙「募集要項」をご参照ください。

(1)志望理由書(2)履歴・職務経歴書(3)卒業証明書(4)返信用封筒(5)郵便振替払込金受領書のコピー

入学検定料

10,000円

履修プログラムに伴う諸費用

登録料/30,000円

履修料/150,000円

* このほかに、フィールドワーク、開講式出席などに伴う交通費・宿泊費は各自のご負担となります。

出願手続方法

* 詳細は別紙「募集要項」をご参照ください。

出願書類は、郵送により受け付けます。

出願手続・願書送付先

出願・入学に関する一切の照会及び願書の送付先は以下にお願いします。

日本福祉大学大学院履修証明プログラム事務局

〒460-0012名古屋市中区千代田5-22-35 名古屋キャンパス6階 名古屋事務室

TEL (052) 242-3050 FAX (052) 242-3072

E-mail manabi-jim@ml.n-fukushi.ac.jp

専用HP <http://www.n-fukushi.ac.jp/gs/manabi/>

<名古屋事務室窓口時間>平日(月～金) 10:00～17:00

※土・日・祝祭日は受け付けておりませんのでご注意下さい。

